

□世界初のハイブリッドメガネを完成□
スーパーエンジニアリングプラスチック
MIRACLE P

鯖江市の郊外にある「ミラクルP」は、中小企業ながら技術のポテンシャルは世界レベル。高い機能性を持つエンジニアリング・プラスチックのエキスパートとして日本製メガネのクオリティを支えている、縁の下の力持ちだ。このほど、ウッドと特殊プラスチックのコラボによるオリジナルフレーム「和(NAGOMI)」を発表。その裏には素晴らしい職人技と驚異の素材、革新的なメッキ技術との運命の出会いがあった。



第一弾はフレームのフロント部分に高級木材である柎植、黒檀、サティネを使用。要望があれば木彫りや石入れ、テンプレの色チェンジなどのオーダーにも対応してくれる。フレーム価格は各6万円



金属に見えるが、実はプラスチックに特殊メッキを施したもの。写真のように表面加工を行ない、模様を浮き立たせることもできる

1本のフレームの中に世界を感嘆させる
技術がいくつも詰め込まれている。

プラスチックの可能性を
開拓したエンジニア。

鯖江市が国産メガネの一大産地になった背景には、多くの企業、職人たちが素材と技術の発展に力を注いできた歴史がある。その集大成のひとつが、けた外れの弾性を持つ特殊樹脂ポリフェニルサルフォンのメガネへの応用だ。曲げてもねじっても折れず、熱を加えても変形せず、医療資材に使われるほどの安全性。哺乳びんからスベスベシヤトルのシールドまで、幅広い分野で活躍している。この超高機能素材のフレーム加工に成功し、特許を取得したのが、「ミラクルP」社長の北村健一氏だ。「従来のプラスチックは強度や耐熱性に限界があり、高級なメガネに使われることはありませんでした。進化したプラスチックであるポリフェニルサルフォンは、メガネ部品とし

木製フレームづくりの
達人との出会い。

その職人とは、ハンドメイドのウッドフレームメガネを製作する「工房樹(たつき)」の角野哉雄さん。「すごい職人ですよ。ポリフェニルサルフォンで提案用のプロトタイプを作る際、フロントのフレームまで製作できたのは角野さんだけだったんです。彼のウッドフレームのメガネもフィッティングが素晴らしく、すっきりファンになりました」

角野さんもこの素材には「何だこれ!」と衝撃を受けたそう。しかし、得意とする木の加工と同じ要領で扱えたため、自分ならやれるという手ごたえがあった。プロジェクトを通じてお互いの技術を認めあい、リスペクトしあふたり。「コラボしたら面白いのができそうだ」と考えたのは、自然な成り行きだったといえるだろう。

オリジナルフレーム
「和(NAGOMI)」が誕生。

そんな両者のタッグによって完成したのが、4月に発表されるオリジナルフレーム「和(NAGOMI)」。日本文化に息づく伝統の素材と現代のテクノロジーを駆使した革新の素材、対照的な技術の調和によって生み出された世界初のハイブリッドメガネだ。このフレームの製造にあたり、ポリフェニルサルフォンだから施せる特殊なメッキ技術も確立。プラスチックの概念を超える色味や模様を表現できるようになった。

手作業で形づくるウッドフレームは静かに存在感を主張し、メタリックな質感のテンブルと意外性のあるコントラストを描く。何より驚くのは、顔に溶け込むかのような極上のフィッティングだ。もともと軽い素材のうえに特殊メッキも厚さ0.03ミクロン以下と極薄。見た目のポリウム感に反してエアリーな心地で、木の温かな質感が柔らかく肌になじむ。しっかりとホールドしつつストレスを感じさせないのだ。フレームもメッキも耐久性が高いので、木の風合いが深まるのを楽しみながら長く愛用することができる。

「和」には技術者としての感動が詰まっていると語る北村社長。人の和、技術の調和、心と物質感、さまざまな「和」が奇跡のように集約したこの作品が、これから世界をどう魅了していくのか期待したい。

(上) 代表取締役社長の北村健二氏は、プラスチック素材開発に携わってきた技術者出身。「癒されて、よく見える、かけるだけで心が和むメガネになってほしいですね」



(下) 超弾力性の素材なので、こんなに曲げても大丈夫。形状が崩れず、すぐに元通りになる



有限会社 ミラクルP
1993年創業

「和 nagomi」シリーズは「ミラクルP」を窓口限定販売される。商品を見たい方や問合せは事前に予約のうえ来社を。今後は社内に展示スペースを設け、一般の方も気軽に見に来られるようになる予定だ。

鯖江市冬島町2-6 ☎0778-62-3198
☎AM8:30~PM5:30 ㊟毎週日曜日、祝日(予約対応可)
miracle.p@bz04.plala.or.jp

